

## 2017 年度第 3 回 火山学会理事会 議事録

開催日時および開催場所

2017 年 9 月 20 日 16 時 00 分～18 時 30 分

熊本大学教育学部 2-D 講義室

出席者：井口正人，篠原宏志，山里 平，市原美恵，上田英樹，大倉敬宏，下司信夫，東宮昭彦，西村太志，萬年一剛，三浦大助，

委任状提出者：大野希一，嶋野岳人，橋本武志，吉本充宏

### 1. 庶務委員会議案

庶務委員会より，渡辺秀文会員・藤井敏嗣会員・石原和弘会員を名誉会員として総会に推薦することが提案され、了承された。

### 2. 庶務委員会報告

2016 年度下半期からの会員動向について資料 1 の通り報告された。会員総数は，5 月 20 日に会長が承認した新規入会分を含め，1063 名となった。

現役員の任期満了に伴う 2018 年度役員選挙の実施案の作成状況が報告された。選挙管理委員会の人選を進めていること、選出する役員数は前回選挙と同じく 15 名とする方針で調整中であることが報告され、方針が了承された。選挙公示で示される内容については、次回の理事会に提案する予定。

### 3. 火山防災委員会報告

2017 年度上半期の活動及び今後の活動予定が報告された。

○上半期の活動

・2017 年度第 1 回火山防災シンポジウムを、5 月 21 日の連合大会にあわせて開催し、68 名の参加があった。鹿児島大学の石嶺氏による話題提供（火山防災協議会が期待する火山専門家の役割に関する聞き取り調査）とそれに基づく議論が行われた。

・防災学術連携体総会が 6 月 2 日に土木学会講堂で実施された。

・2017 年度第 2 回火山防災シンポジウムを 9 月 8 日に東京工業大学田町キャンパスで実施し、52 名の参加者があった。アジア航測千葉市ほかによるハザードマップの事例紹介が行われた。

○今後の予定

10 月 2 日に内閣府火山防災勉強会が開催予定。

防災推進国民大会 2017 が 11 月 26～27 日に仙台市の仙台国際センターで開催予定。火山防災委員会から吉本委員長が出席予定のほか、山里委員の講演が予定されている。

人材育成コンソーシアムとも協力してシンポジウム等への積極的な学生の参加を促したい。

### 4. 学校教育委員会報告

・地震火山子供サマースクール

2017 年度は 8 月 9・10 日に熊本県益城町で開催。テーマは「熊本地震で見つけた大地のヒミツ」。参加者 28 名（小学生 18、中学生 4、高校生 6）。火山学会からは講師として林信太郎・池辺伸一郎・横山光・大倉敬宏の各会員を派遣した。

益城町の後援が大きく、内容についての地元の評価も高かった。

2018年度のサマースクールは伊豆大島で開催予定。

#### ・秋季大会普及事業

9月24日午後に予定している。熊本大学工学部百周年記念館にて公開講座「2016年熊本地震と阿蘇山噴火」を企画。竹村恵二・清水洋・鍵山恒臣各会員による講演を予定。

公開講座「親子で実験～マグマをつくろう！カルデラをつくろう！」を企画。林信太郎・三好雅也会員による公開実験を予定。

#### 4. 広報委員会報告

ホームページ作成は進捗している。費用面からは今年度の予算内で可能な範囲で進めることとなる。秋季学会の終了後にHPの切り替えを予定。

#### 5. 事業委員会報告

学会紹介のパンフレットの作成方針について報告があった。学会等各種行事の時に配布するなどの利用方法を想定。学会の内容や入会方法などの紹介を中心とする。他学会のものを参考に、一般の人や学生を対象とするものを作成する予定。HPの更新と関連付けながら作成する予定。

広報活動とも関連するので、22日に実施予定の広報委員会で内容やスケジュール、有効活用方法などを議論することとなった。

#### 6. 大会委員会報告

・2019年秋季大会開催地公募手続について、例年同様の手順で行うことが報告された。今年度秋季大会終了後直ちに公募を開始し、12月末で締切り、年度内には決定する。

・2017年秋季大会の内容が報告された。熊本市国際コンベンション協会、阿蘇火山博物館、阿蘇ジオパーク推進協議会の後援を得て開催する。学術講演会は21～23日に開始し、公募セッション5件が開催される。発表は口頭113件、ポスター133件で、ポスター発表は昨年の約2倍の件数である。一般普及行事として、普及講演会および公開講座を24日に実施する。

参加費を今年度から値上げし会員4000円、非会員5000円にする。予稿集はPDFで配布するほか、事前申込者には印刷物を有償配布する。

当日の受付混雑の緩和、事務局作業の集中回避のため参加事前登録をウェブ上でできるようにした。

・2018年秋季大会は秋田大学で実施する。LOC責任者は林信太郎会員で、期日は9月26日～28日を予定しており、会場も確保済である。現地討論会は十和田火山で29～30日に実施予定。

秋季大会の公募セッションの在り方について議論が行われた。60周年記念セッションと噴火現象理解のセッションはレビューであり、これまでの研究発表ベースのセッションとは方向性が異なるので、秋季大会の学術講演の在り方について議論が必要であるという意見が出された。公募セッションについても、セッションの内容や方向性について指針が必要であり、学会の企画としての学会の方針を示したうえで公募が必要ではないかとの意見もあり、来年度以降のセッション公募までに大会委員会で検討して次回以降に反映させることとなった。

#### 7. 編集委員会

「火山」編集状況について報告があった。62巻第3号は9月末の発行予定で作業が進められている。

論説 2 件、書評 2 件が掲載される。62 巻 4 号については、論説 1 件書評 1 件が受理済で掲載予定である。

査読状況は、現在論説 5 件が査読中である。

#### 8. 他学会連絡担当委員会報告

EPS の分担金問題について、EPS に分担金案の算出根拠などについて打診した結果が報告された。EPS によると、Springer との 5 年ごとの契約を途中で変更することは難しいため、現在の投稿料を契約途中で値上げすることは難しい。そのため次の科研費が採用されない限り、2018~2019 年は学会からの分担金によって補填する必要がある。事務経費 520 万円のうち、100 万円はこれまでの経費節減によって対処可能であるが残りの 420 万円を 5 学会に分担をお願いしたいとのことである。最近火山関連の投稿も増えているため、火山学会からの分担については増額をお願いしたいとのこと。5 学会の会員数などを考慮した EPS からの分担金負担案はこれまでの年間 20 万円から大幅な増額となる見込み、との報告がなされた。

これに対して、投稿を促してその結果投稿数が増えたことを根拠に分担金を増やすというのは問題があるのではないかという意見が出された。また、そもそも科研費については申請しても採択されるかどうかは不確定であるため、分担金の増額は不可避であり現段階では負担割合について具体的な議論をするべきであろうとの意見が出された。2018~19 年の過渡期の経過措置として、学会として受け入れ可能な適切な負担案について火山学会から EPS 側に逆提案してもよいのではないかと意見も出された。

井口会長からは、分担金の変更については 2017 年 1 月の学会長懇談会での覚書からの方針転換になるので、再び EPS 誌 5 学会長会合で議論が必要であるとのコメントがあり、今後 EPS 側とも方針について引き続き協議を進めてゆくこととなった。

#### 9. 国際委員会報告

アジア火山コンソーシアムについて、京都大学防災研究所を日本側の拠点として今後日本学術振興会に助成申請を準備中である。

#### 9. 各賞選考委員会報告

・秋季大会の学生優秀発表賞の審査について、参加者の事前登録制度を利用して審査員候補者をリストアップして依頼した結果、約 60 名が審査を引き受けてくれた。採点結果の集約は現在手作業で行っているが、集約システムをつくらないと作業が大変である。審査結果については、理事会承認が必要となるので集計がまとまり次第理事会に提案する。

・2018 年度の各賞候補者募集について、例年とほぼ同様のスケジュールで、1 月ごろ公募し 3 月に締め切り、委員会で審議の上 5 月に予定される理事会・総会に提案する予定であることが報告された。早めの日程で行い十分な審議・議論の時間をとるように努めることが報告された。

#### 10. その他

60 周年記念事業の報告書がまとまり学会 HP 上で閲覧可能となっている。WG2 の内容は非会員に無制限に公開するのは慎重にすべきと考えられることから学会 HP にパスワード付きで会員に公開する。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2017年11月17日

議長 井口正人

議事録署名人 篠原宏志・山里 平

## 資料 1

### 1. 会員数動向関係

#### 〈会員関係〉

1. 入退会希望 2017年度連合大会後・入会（承認済み） 個人：60名 団体：1件  
維持会員 2名，学術会員 51名，一般会員 7名 団体一般会員 1件

2016年度退会（連合大会後） 2名

維持会員 0名，学術会員 2名，一般会員 0名

2016年度学生会員・期間満了退会 23名

維持会員 0名，学術会員 23名，一般会員 0名

2017年度・除名 13名

維持会員 3名，学術会員 9名，一般会員 1名

### 2. 会員数

#### 2. 会員数

	維持会員	学術会員	一般会員	計
2017年連合大会後（個人）	285	659	88	1032
2017年連合大会後（団体）	2	0	18	20
名誉会員	9	0	0	9
2017年連合大会後・合計	296	659	106	1061
2017年連合大会後入会（個人）	2	51	7	60
2017年連合大会後入会（団体）	0	0	1	1
2017年度学生会員・会員資格継続（2017連合大会後）	0	10	0	10
2016年度学生会員期間満了退会	(0)	(23)	(0)	(23)
2016年度退会（2017連合大会後）	0	2	0	2
逝去	0	0	0	0
区分変更	3	-2	-1	0
2017年度除名	3	9	1	13
2017年度除名後	298	707	112	1117

### 3. 2017年度・除名：13名（別紙）

※6月下旬に除名警告書を発送後、8月末日までに会費の支払や会員資格継続希望の連絡がないため除名。

### 4. 学生会員期間満了退会

学生会員継続申請未提出者 23名（内4名会費未納有り）（別紙）

※8月末日までに学生会員登録カードの提出がないため退会。

但し、未納会費は継続して請求する。